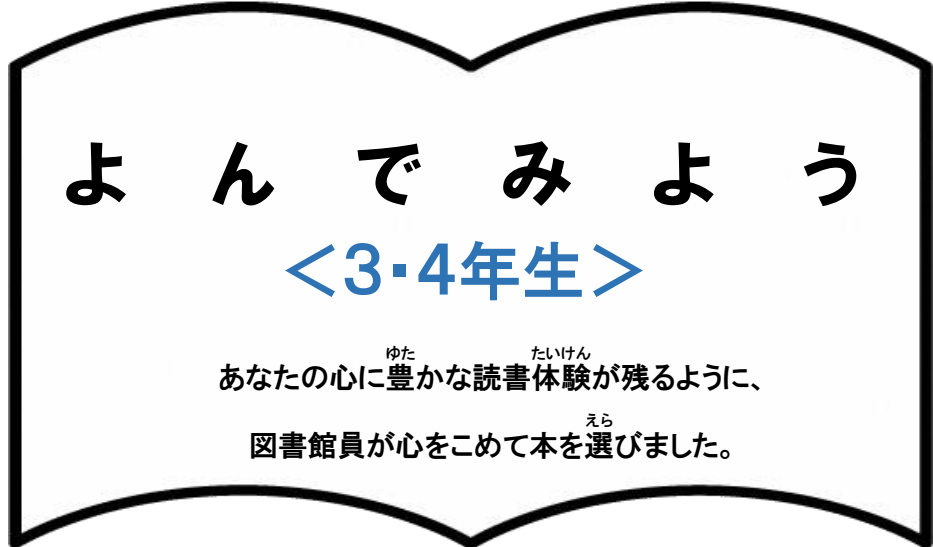


千葉市図書館おすすめブックリスト



長くつ下のピッピ

おおつか ゆうぞう やく
リンドグレン/作 大塚 勇三/訳
いわなみしよてん
岩波書店 1964 年

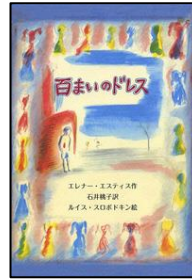
ピッピは9才の女の子。世界一力が強くて、こわいもの知らず。学校には行かず、ごたごた^{そう}荘でくらしています。ピッピのやることはき^きそうてんがい
奇想天外ですが、となりの家のトミーとアンニカは、そんなピッピが大すきで、いっしょに遊ぶようになります。全3巻^{かん}。



百まいのドレス

エレナー・エステイス/作 ルイス・スロボドギン/絵
いしい ももこ やく いわなみしよてん
石井 桃子/訳 岩波書店 2006 年

ワンダは家が貧^{まず}しくて、いつも同じ服を着ているという理由でいじめられています。「百まいのドレスを持っている」と言ったため、ますますからかわれたワンダは、ある日美しい百まいのドレスの絵^{のこ}を残して、学校にこなくなりました。



まだまだおすすめ
あります!

この本もよんでみよう

- 「おじいちゃんの口笛」ウルフ・スタルク/作 ひしき あきらこ やく しゅつぽん
菱木 晃子/訳 ほるぷ出版 1995 年
- 「妖怪一家九十九さん」富安 陽子/作 やまむら こうじ りろんしや
山村 浩二/絵 理論社 2012 年
- 「シンドバッドの冒険」ルドミラ・ゼーマン/文・絵 わき あきこ やく いわなみしよてん
脇 明子/訳 岩波書店 2002 年
- 「ものぐさトミー」ペーン・デュボア/文・絵 まつおか きょうこ やく いわなみしよてん
松岡 享子/訳 岩波書店 1977 年

ロバのシルベスターとまほうの小石

ウィリアム・スタイグ/さく せた ていじ/やく
ひょうろんしや
評論社 2006 年(初 1975 年)

ロバの子のシルベスターは、願いがかなうという小石をひろいました。ところがその帰り道、目の前にライオンがあらわれたので、思わず「岩になりたい!」と願^{ねが}ってしまいました。岩になって動けなくなったシルベスターは、家にもどれるのでしょうか。



お江戸の百太郎

なす まさもと
那須 正幹/作 長野 ヒデ子/画
いわさきしよてん
岩崎書店 1986 年

寺子屋で学ぶ百太郎は 12 才でしっかり者。岡っ引きの父ちゃんと二人ぐらしです。父ちゃんは人は良いけれど、捕物の腕^{とりもの うで}は今一つさえません。百太郎は友だちといっしょに父ちゃんの手助けをします。いろいろな話が4話入った短編集^{たんべんしゅう}です。全6巻^{かん}。



千葉市図書館

中央図書館	043-287-3980	若葉図書館	043-237-9361
みやこ図書館	043-233-8333	緑図書館	043-293-5080
花見川図書館	043-250-2851	美浜図書館	043-277-3003
稲毛図書館	043-254-1845		

その他、分館・公民館図書室の情報や、各館の詳細情報はホームページをご覧ください。

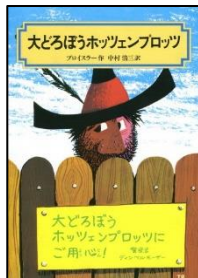


千葉市図書館 検索

大どろぼうホッツェンプロッツ

プロイスマー／作 なかむら こうぞう やく 中村 浩三／訳
かいせいしや 借成社 1966年

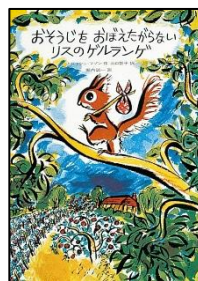
おばあさんのコーヒーひきをぬすんだ悪名高い大どろぼうをつかまえようと、まごのガスパールと友だちのゼップルは作戦を立てますが、なんと大どろぼうにつかまってしまいます。ふたりは知恵をしぼって大どろぼうに立ち向かいます。全3巻。



おそうじをおぼえたがらないリスのゲルランゲ

J・ロッシュ＝マゾン／作 ほりうち せいいち 堀内 誠一／画
やまくち ともこ やく ふくいんかんしよてん 山口 智子／訳 福音館書店 1973年

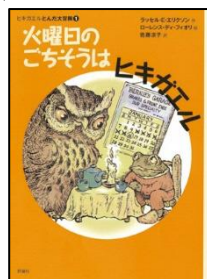
子リスのゲルランゲはおそうじが大好き。じまんの赤いしっぽを汚したくないからです。ある日、おばあさんにしかられて家を出し、オオカミにつかまりますが、少しもあわてず、意地っ張りの根性でオオカミをやり込めてしまいます。全2巻。



火曜日のごちそうはヒキガエル ヒキガエルとんだ大冒険1

ラッセル・E・エリクソン／作 ローレンス・ディ・フィオリ／絵
さとう りょうこ やく ひょうろんしや 佐藤 涼子／訳 評論社 2008年(初1982年)

ウォートンとモートンはヒキガエルの兄弟。ある日、ウォートンはおばさんにおかしを届けようと出かけますが、ミミズクにつかまってしまいます。6日後の誕生日のごちそうにするためです。ウォートンは6日間をどのようにすごしたのでしょうか。全7巻。



がんばれヘンリーくん

ベバリー・クリアー／作 ルイス・ダーリング／絵
まつおか きょうこ やく がっけん 松岡 享子／訳 学研プラス 2007(初1968年)

ヘンリーくんは小学3年生。ある日、とてもやせた犬を拾います。あばら骨が見えるのでアバラーと名づけ、家につれて帰ろうとバスに乗ると、あばらだして大騒ぎに。それからというもの、思いがけない事件が次々におこります。



ゆかいなホームーくん

ロバート・マックスキー／作
いしい ももこ やく いわなみしよてん 石井 桃子／訳 岩波書店 2000年(初1951年)

機械いじりが好きなホームー君は、ある日おじさんから、自動ドーナツ製造機でドーナツ作りをたのまれました。ところがストップボタンを押しても機械が止まらず、ドーナツがお店にあふれてしまいます。6つの短いお話が入った短編集です。



黒ねこの王子カーボネル

バーバル・スレイ／作
やぐ いわなみしよてん 山本 まつよ／訳 岩波書店 1985年

10才のロージーは、夏休みのある日、市場で魔法のほうきと、言葉を話す黒ねこを手に入れました。このふしぎな黒ねこは、ねこの国の王子カーボネルだったのです。ロージーは友だちのジョンと、黒ねこにかけられた魔法をとくことにします。



セロひきのゴーシュ

みやざわ けんじ 宮沢 賢治／作 またい たけし 茂田井 武／画
ふくいんかんしよてん 福音館書店 1966年

セロひきのゴーシュは、演奏が下手でしかられてばかり。ある晩、1ぴきのねこが、セロをひいてほしいとやってきます。それから毎晩動物たちが次々にやってきて、演奏をねだるようになり、ゴーシュの腕前もあがっていきます。さし絵も楽しい物語です。



小さなスプーンおばさん

アルフ＝プジョイセン／作 おおつか ゆうぞう やく 大塚 勇三／訳
がっけん 学研プラス 1966年

おばさんはいつも突然、時も所もおかまいなしに、ティースプーンくらいに小さくなってしまいます。困ることもありますが、知恵をたらかせて、いつも通りに困難を乗り越切っていきます。

